

学力調査の及ぼした影響に関する研究(3) ～沖縄・静岡の状況から～

なぜ静岡は小学校が低く、 中学校が高いか

馬居発表資料

- ①人口減少と学力向上
- ②秋田の小学校 学習指導部No. 1、2、3
家庭学習の手引き
- ③静岡の小学校 学力観の聞き取りメモ
- ④静岡の小学校の実践記録
- ⑤静岡の小学区の学校安全計画

人口減少と学力向上、秋田にいて思うこと・・・ ※

2004年に馬居先生と出会い、その研究の調査助手をしていく中で、秋田県が少子高齢化先進県であること、また人口減少県であることを実感し、考えさせられてきた。ちょうどその頃、90年代に勤務していた男鹿半島にある小学校(写真1)が統合され、校舎が解体されたとき、その跡地を見に行った。(写真3)そこでは学校前の海に沈む夕陽の中に、二宮金次郎の石像が立ちつくしていた。(写真4)



1) 在りし日の小学校

この学校で、4年生2名、5年生3名、6年生7名と「ふるさと学習」に取り組んだ。子どもたちは身の回りの自然を見つめ、観光地としての地域を見つめ、地域の将来を語っていた。夏休みには、みんなで海辺のゴミ拾いを行い、軽トラックいっぱいゴミを集めて、「観光客がたくさん来るといいね。」と語り合っていた。(写真2)

頭では分かっていた秋田県の人口減少、深く考えてこなかったこの事実が、勤務校が解体されるという現実と重なり、問題として感じられるようになっていた。そんな中、2005年に秋田県は学力トップの肩書きを頂くことになっていったのだが、驚きよりも、戸惑いのほうが大きかった。「学力向上に向けて特別な取り組みはしているの?」と、尋ねられても、特別と思うことは、何もしていなかったからだ。

当時(今もだが)、秋田県の公立小学校に勤務し、毎日の授業のほかに、家庭学習や日記のチェック、小テストの作成や成績処理、校内行事の企画・準備・指導、生徒指導に校内授業研究会、これに校内外の会議や研修などが加わり、毎日10~13時間、ろくに休憩を取ら

ずに働いても仕事が終わらないのが日常だ。こうした状況は自分が教師になった時点、1994年ですでに学校現場に備わっていた。自分としては特別に忙しい学校で働いているという意識は無かった。(現在もだが)

例えば、子どもたちが頑張る家庭学習だが、4月のスタートに「家庭学習の手引き」を子どもと保護者に配る。漢字や計算だけでなく、視写や音読など、子どもに取り組んでほしい内容を明記し、PTAでも説明



2) 子どもたちとのゴミ拾い

※馬居政幸・角替弘規共編著『人口減少時代の家族・学校・地域・社会～生涯にわたる学びと教養の新たな可能性を求めて～』(NSK出版 7月末出版予定)第5章所収

して保護者の理解・協力をお願いする。取り組み時間も 学年×10分+10分 のように5年生になると1時間程度取り組めるよう声をかける。同じ中学校区にある小学校で連携し、足並みをそろえることもある。毎日のチェックは大変だが、子どもたちの力を伸ばす場として全校で取り組んでいるところがほとんどだと思う。

学校ごとに取り組む研究・研修では、研究テーマに沿って各学年で取り組み、授業検討会を開くことが多い。また、市の教科研究会としても研究や研修に取り組み、授業を公開することもある。県外

への研修も年に数人だけが学校で希望をとって参加している。自分の授業を見直し、授業改善に努めることは、教員を続けていく上で大事なことだと思い、取り組んできた。

この10年、秋田県では小学校が58校減って255校から197校に、中学校では19校減って131校から112校へと減少した。そんな中、教えてきた子どもたちの中に、千葉県や神奈川県で教育の現場に立っているものがある。教師を目指し、教師になるために、県外を



4) 明治から立つ二宮金次郎は今も掲揚塔のそばに



3) 学校の跡地はゲートボール場に

選んだ教え子達だ。秋田で生まれ育ち、夢を追うために秋田を離れなければならない若者達がたくさんいる。いかにしたらこうした若者達が秋田に残って生きていけるか。10年後か、15年後か、今、目の前の子どもたちが成長し、将来ふるさとで生きていきたいと思ったとき、ふるさとを選択できるだろうか。理想論でもなく、観念の遊戯でもなく、現実を打開していく方法を考え、未来への環境を作

っていくのは、今の大人たちの責任では無

いだろうか。

(渡部 和則)



授業のスタートにあたって

学校の研究主題や仮説に基づく実践も重要ですが、その前に……

来週から、授業が始まります。何事も最初が肝心！

まずは、「学習の約束」の徹底を図りながら、しっかりと学習に向かう姿勢を構築していきたい

と
思います。ビシッとつけていきましょう！

○学習に必要な物は机に出さない → 私語や手遊びにつながります。

* 筆箱は机の中に入ませよう → 全校で徹底していきましょう

○始めと終わりのあいさつを大切に → 気持ちを切り替えるスイッチです。

* 本校では「立腰(りつよう)」という言葉も用いています。

○名前を呼ばれたら返事をする → ついついルーズに……。習慣付けが大事です。

○「聴き方」の指導を → 学習の基本です。学び合いの充実を図るためにもよい「聴き手」を育てていきましょう。

○ノート指導の充実を → 学習の過程を記録することも重要な学習活動です。見通しをもって学習を進めたり、論理的な思考力を育てたりすることにもつながります。

・めあて→青線で囲む まとめ→赤線で囲む → 線は定規で引く指導を
・算数、理科、社会はA4ノートをお薦めします。
・ノートは毎時間新しいページから見やすくゆったりと書く指導を
→ 他の教科の指導でも生きてきます。



当たり前のことを 当たり前

できるようにしていきましょう。



今年1年よろしくお祈いします。

1 学習指導部

○毎月学習のめあてについて

○「学習のやくそく」・持ち物の確認について…掲示物参照

○家庭学習の進め方について…手引き参照
・連休前に各家庭に配布

○朝の時間の取組について

①スキルアップタイム

・毎週月曜日 朝 8:10~8:25

・既習事項の確認や定着を図る内容

・計算の練習等、基礎・基本の力を高めるための内容

・スキルアップタイム用のノートを1冊、教材費で購入する。

②ミニテスト

・毎週火曜日→漢字 木曜日→計算

③毎週水曜日→学級に応じて弾力的に

○パワーアップ月間について

・6月、11月、2月に1か月間設ける。

・3~6年は、単元評価問題に取り組む。

・子どもたちの落ちているところや、スキルアップしたいところ、学習状況調査の結果を受けて、落ちているところの単元に取り組む。

○学習コーナーの推進について

・教室
・廊下掲示板(家庭学習コーナー)

学習の歩みができる内容、既習事項を確認できる内容、自力解決の手助けとなる内容、家庭学習の奨励

*黒板上の掲示(学級のキャッチフレーズ)

○言語環境の充実について

・今月の詩、スピーチ活動について

○学校の畑等の活用について

・昨年までの利用状況

1・2年→サツマイモ

3年→キャベツ

4年→ヘチマ

5年→インゲン豆、ジャガイモ、キュウリ

6年→ジャガイモ、ホウセンカ

○夏・冬のドリルについて

・市販のドリル(まとめテスト付)を教材費で購入

*夏休み・冬休み明けの課題テスト



家庭学習の手引き

教員用

約 束

- ①自分から進んで、いろいろな教科に取り組みましょう。
- ②集中して50分以上がんばりましょう。
- ③「めあて」「ふりかえり」「月日、始めた時間」を書きましょう。
- ④ノートは見やすく、ムダ使いたくないで書くようにしましょう。
- ⑤文字や図は、ていねいに書きましょう。(線は、じょうぎを使って)
- ⑥ドリルは、必ずまるつけとまちがい直しをしましょう。
- ⑦終わったら、家の人に見てもらいましょう。

<取り組みメニュー例> (◎は毎日取り組みましょう)

【国語】

- ◎漢字ドリルの練習
- 新しい漢字、語句調べ
- 新しい漢字、語句の短文作り
- ことわざ調べ
- 詩や作文、日記
- 教科書の視写
- 本の紹介
- 問題集などでパワーアップ

【社会】

- 新聞やニュースの感想
- 秋田県内の市町村調べ
- 県名調べ(有名な場所、食べ物、祭りなど関係づけて)
- 教科書のまとめ

【算数】

- ◎計算ドリルの練習
- 教科書の問題の復習
- 問題作り
- 問題集などでパワーアップ

【理科】

- 植物やこん虫観察
- 月や星の観察
- 教科書のまとめ



【他にも】

- 音符や音楽記号の学習
- 楽ふの視写
- 栄養について
- 体力をつける運動について

- ☆宿題は、必ず行い、確実に力を付けましょう。
- ☆時間割を調べ、鉛筆けずりなど、明日の準備もしっかりやりましょう。

家庭用

継続は力なり

～家庭学習の手引きについて～

小学校の学習は、これから生きるための基礎となるものです。学校では、仲間と共に学び合い、一人一人の学びを豊かにするところと考え、基礎的・基本的学力の定着に努めています。しかし、学校で付けた力を確実なものにし、発揮していくためには、家庭と連携した「家庭学習の習慣化」が不可欠です。そこで、家庭での学習をお子さんと一緒に考え、見直していく参考資料として「家庭学習の手引き」をお届けします。ご家庭の事情やお子さんの実態に合わせ、家庭での学習の約束を話し合う際に、ぜひ活用していただきたいと思ひます。

<家庭学習の意義>

- ・習慣を身に付けることで自学ができるようになり、生涯学習につながっていく。
- ・学校で学習した内容をより確かなものにし、学習を広げたり、深めたりする。

<取り組みにあたって>

- ◎漢字や計算の練習に、取り組みましょう。(3年生以上は毎日くり返そう)
- ・「日付」「問題番号」「めあて」「振り返り」を必ず書きましょう。
- ・時間は、学年×10分+10分をめやすに取り組みましょう。
- ・字をていねいに書きましょう。
- ・下敷き、定規、消しゴムをしっかり使いましょう。
- ・必ず答え合わせをして、間違いを直しましょう。
- ・分からないときは、教科書を見たり、家の人に聞いたり、次の日先生に質問したりしましょう。(分からないところを大切に)
- ・家の人に見てもらい、次の日先生に提出しましょう。

力を伸ばしていくための 家庭生活チェック!

- 早寝、早起きや朝食をしっかり取るなど、基本的な生活習慣が身に付くようになっていますか。
- テレビやゲームの時間は決めていますか。
- 時間割をそろえるなど自分のことは自分でさせていますか。
- 学校の様子や友達のこと、将来の夢や親の体験などを話し合う機会がありますか。
- よいことをほめ、自信をもたせるようにしていますか。
- 学校からのお便りやプリントに目を通し、お子さんの学習の様子を理解していますか。

静岡の教師の授業観と子ども観!?

なぜ、静岡の学力は中学校で伸びるのか

「なぜ、静岡は学力・学習状況調査の学力は中学校で伸びるのか」との馬居先生からの問いに対し、友人の先生方10名と話し合って出た意見の記録です。

- イ) 小学校の傾向として、テストの点数を上げることに力を入れていないから。
- ロ) 思考したり、考えたりする授業を小学校で繰り返し行っているから。その結果として、中学校で知識を身に付けるとさらに思考が深まる。
- ハ) 小学校で学ぶ楽しさを教えているから、中学生になっても学びから逃げない。
- 二) 教え込む意識が小学校の教員は低く、子供の思考に寄り添おう、理解しようと考えている教師が多いから。結果として、子どもたちの学ぼうとする意欲が中学校でも持続する。
- ホ) 中学校入試をする子供が他県よりも少ないので、点数を上げるテクニックのようなものを小学校では教えていない。
- へ) 小学校は学力・学習状況調査のテスト対策をしていないから。
- ト) 管理職と教職員が同じ方向を向いていて、点数を伸ばすことに管理職も力を入れていないから。そのため、特性や発達段階を大切に学習を行うことができる。

最後の返答が私の立場としては一番しっくりきました。管理職と教職員が同じ方向を向き、お互いに意見交換を行い、子どもの育ちを中心に学習に取り組むことができる。ここに静岡のよさがあると感じています。

ちなみに、秋田方式（丁寧に学び方教えてから学習する）の真似をしようと考えている先生は一人もいませんでした。ただ、秋田の家庭学習（祖父母が関わる学習）については、参考にしていきたいという意見がありました。

まとまりませんが、取り急ぎまとめてみました。よろしくお祈りします。

静岡の授業と子どもたちの行動と思考

3. 少子高齢・人口減少社会を生きる

資質・能力を育む総合的な学習の時間 ※

1) 実践研究の目的

総合的な学習の時間においてこそ、将来、子どもたちが生きていくために必要な資質・能力を育むことが求められる。そのためには、予想外の問題に対して前向きに取り組む学習を行う必要がある。だが現状は必ずしもそうではなく、調べ活動に終始したり、教師が構想した単元通りに進められていたりする。予想外の問題を考えることは容易ではないが、因勢調査に明らかのように、子どもたちが生きていく社会は少子高齢・人口減少社会である。その結果生じる問題について考えることはできる。つまり、少子高齢・人口減少によって生じる様々な変化を問題として取り上げれば、将来、子どもたちが生きていくために必要な資質・能力を育むことができるのである。

このような考えのもと、2004年に研究チームを作り、少子高齢・人口減少社会を生きぬくために必要な資質・能力を育むための授業の在り方について取り組んできた。だが、当初、研究の趣旨が現場の先生方に理解されず、「少子高齢・人口減少社会を意識した授業には価値がありません」と先輩から言われたこともあった。ところが、数年前、大学2年生になった3人の教え子に再会する機会があった。彼らは、将来の夢を語る一方で次の言葉をつぶやいた。「先生の話が本当になった。少子高齢化が進行して人口減少が始まった。これからの日本の社会はどうなるのだろう」。先生方には受け入れられなかった授業内容を子どもたちは覚えていた。このことに驚くと共に、彼らが少子高齢・人口減少社会に直面し当事者となって生活している姿にも驚いた。

ここでは、これまでの研究概要に続いて、予想外の問題に子どもたちが挑んだ授業実践を二点紹介する。一点目は、突然バス停が撤去されたこと、二点目は、台風によって橋が流されたことに取り組む授業実践。どちらも探究活動の過程で生じた予想外の問題である。このような問題に取り組むことが、子どもたちが生きていくために必要な資質・能力を育むことが可能になる。この二つの授業実践を振り返ることを通して、少子高齢・人口減少社会を生き抜くために必要な資質・能力について考察する。

2) 研究の概要

大学院修士課程在籍時（2004年4月1日～2006年3月31日）から取り組みを始めた実践研究は、日本生活科・総合的学習教育学会においてその研究成果を発表してきた。特に2007年6月に開催された第16回千葉旭大会では、「少子高齢・人口減少社会を支える子を育む総合的な学習の時間の課題Ⅱ」と題して発表を行った。

本発表では、同学会の第14回、第15回大会での発表課題を踏まえ、まず馬居研究会顧問と新村が現行の総合的な学習の時間に内在する問題点を整理し、超少子高齢化による人口減少社会の特徴と課題ならびにその課題を解決するうえで必要となる人的資源の特性を

※馬居改幸・角替弘規共編著『人口減少時代の家族・学校・地域・社会～生涯にわたる学びと教える新たな可能性を求めて～』(NSK出版 7月末出版予定) 第9章所収



明らかにした。その後、米津と渡部がそれぞれの実践を比較して、総合的な学習の時間
の課題点を探った。米津が静岡県富士宮市で行った実践は、少子高齢・人口減少社会に関心
を持たせるために、人口の変化を題材として取り上げたものであり、渡部の秋田県男鹿市
で行った実践は、少子高齢・人口減少が進行し学校が廃校になることを題材として取り上
げたものであった。この両者を比較したことにより、少子高齢・人口減少社会に向かっ
ている地域で行う学習と、少子高齢・人口減少社会に直面している地域で行う学習の違いに
ついて示すことができた。

2009年6月に鹿児島県で開催された鹿児島大会では、「少子高齢・人口減少社会を支える
子を育む総合的な学習の時間Ⅲ」と題して発表を行った。本研究においては、少子高齢・
人口減少と人口減少社会が進行する社会の特徴と課題ならびにその課題を解決するうえで
必要となる資質について提案した。

本発表で取り上げた実践は、米津が2007年度に担任した第5学年で取り組んだ単元名
「みんなが来たがる池」であった。1年生の時に遊んだ校内にある池が悲惨な状態であると
気付いた子どもたちは、自ら動き始めた。毎朝登校すると池に通い、水面に浮いている葉
っぱを拾い始めた。その後、学級で話し合い、学習問題「みんなが来たがる池にするには
どうしたらよいのだろう。」を作成した。グループ活動では、メダカの種類や微生物を調査
したり、池に関する水道料金について調べたりした。そのことを学年や全校に伝えた。し
かし、池との関わりが深まるほど、池で遊ぶとする他学年の友達と意見が衝突したり、
池をきれいにする作業の仕方について学級内で意見が対立したりした。結局、結論を出す
ことができず、当初の池をきれいにする作業を終わらせることはできなかった。この実践
を見直し、子どもたちが生きていくために必要な資質・能力を4点（世代間で支え合おう
とする態度、多様な人たちと共に働き生活する必要性を理解する力、現実（ヒト・モノ・
コト）を考えて提案する力、大人になったときの生活や社会を想像する力）提案した。

2013年6月に兵庫県で開催された兵庫大会では、「少子高齢・人口減少社会を支える子を
育む総合的な学習の時間の課題と可能性Ⅳ」と題して発表を行った。

本研究では、2012年に静岡で米津が行ったキャリア教育の実践に基づき、少子高齢・人
口減少社会を生きていくことを余儀なくされる子どもたちに総合的な学習の時間を通して
身に付くようにしたい資質・能力とキャリア教育の課題について提案した。本発表で取り
上げた実践は、米津が2012年度に担任した第6学年で取り組んだ単元名「貴船から学ば
わたしたちの生き方一人の生き方」であった。月曜日の早朝、学校の周りのごみ拾いをし
ている地域にある清掃業者に気付いた子どもたちは、「どうしてごみ拾いをしているのだろ
う」「どうして大人は働くのだろう」という思いを強くもつようになった。子どもたちは、
親や地域で働く方に聞き取り調査を行い、職業についての理解を深めた。そして、実際に
職場体験を行い、その活動をおして、「働くとは相手のことを考えることである」という
ことを感じ取った。さらに、人口の変化から、職業の変化や自分たちが生きていく社会が
少子高齢・人口減少社会であることを理解することができた。この実践を見直し、今の社

会を生きていくことを前提にキャリア教育を行うのではなく、今は異なる少子高齢・人
口減少社会を生きていくことを前提にキャリア教育を行う必要があることを提案した。

このように日本生活科・総合的学習教育学会にて実践を発表してきた。当時、受け入れら
れなかった授業内容も発表回数を重ねていくうちに理解されるようになり、今では少子高
齢・人口減少社会を意識した授業の価値について異を唱える方は見受けられない。

次に、少子高齢・人口減少社会が直面する予想外の問題に対して取り組んだ授業実践を紹
介する。

3) 授業実践

(1) 2013年 第3学年単元名「バス停がなくなった」富士宮市立内房小学校

本実践は、2年生7名と3年生4名の計11名の複式学級の内、4名の3年生が行った総
合的な学習の時間の授業である。4名



図 9-10 バス停

の3年生は社会科の学習で地域の調査
活動をしているときにバス停（図9-
10）で寂しく立っている高齢者を見か
けた。その寂しそうな姿から、子ども
たちは、高齢者のためにベンチを作り
たいという思いを強く持つようになっ



図 9-11 ベンチの設計図

た。このことがきっかけとなり、総合的な学習の時間がスタート
した。

子どもたちは話し合い、高齢者や地域の人のためにベンチを作
り、各バス停にベンチを設置することを考えた。ベンチの作り方
や大きさ、材料などについて話し合い、保護者にも協力をお願い
した。



図 9-12 撤去されたバス停
ベンチ

ところがベンチの設計図（図9-11）を考えている時に、突然駐
在所の前のバス停が無くなるという出来事が生じた（図9-12）。
すぐに学区にある他のバス停についても調べたところすべてのバ
ス停がなくなっていることが判明した。突然バス停がなくなるは
ずがないと考えた子どもたちは、保護者や地域の方への聞き取り
調査（図9-13）を始めた。



図 9-13 聞き取り調

その結果、利用者が少ないために路線バスが廃止され、バス停
が撤去されたという事実を突き止めた。すると今度は、路線バス
が廃止されて、高齢者や地域の方が困っているはずだと考え、交
番の警察官への聞き取りや保護者へのアンケート調査を行った（図9-14）。その結果、路
線バスが廃止されて困っている人がいないこと、路線バスを廃止した代わりに料金が一定

であるタクシーが整備されていることが分かった。

このことに気付いた子どもたちは、タクシーについても調べ始めた。市の交通対策室の方を学校に招いて話を伺ったり、実際にタクシーに乗る体験をしたりした(図9-15)。バス停がなくなるといった予想外のことが起きて問題も投げ



図 9-15 タクシー体験

出すことなく、最後まで子どもたちは追究活動を続けた。

このような活動を通して、問題を解決しようとする力を育てることはできた。そして、本来、子どもたちには、予想外の出来事を解決しようとする前向きな意欲があることを改めて感じ取ることができた。

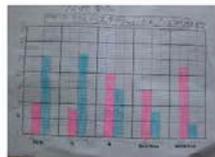


図 9-14 アンケート調査

(2) 2014年 第5学年単元名「橋が流された」富士宮市立内房小学校

本実践は、小学校第5学年10名が行った総合的な学習の時間の授業である。

子どもたちは第4学年の総合的な学習の時間に、川に生息する生き物について調べ、魚や虫の種類から川の水がきれいであるという結論を導き出していた。また、社会科の昔の暮らしの学習からは、地域に住む人々が、川を大事にして生活してきたことについても学んでいた。

このことから、子どもたちは、昔の人々と川との関係に興味をもつようになり、昔の人々の生活について調べてみたいという思いが強くなるようになった。このことがきっかけとなって、第5学年の総合的な学習の時間がスタートした。

橋がなかった頃の生活について調べた子どもたちは、渡船を利用して川を渡っていたことや、川舟で米を運んでいたことを突き止めた。そして、予想した川舟をイラストで表したり(図9-16)、復元された川舟を見学したりした(図9-17)。



図 9-16 子どもが予想した川舟



図 9-17 復元された川舟の見学

川に関する災害について調べた子どもたちは、昔は川が氾濫し家が流されたり、死者が出たりする災害が頻繁に起きていたことを学んだ。そして、水害から人々の命を守るために、高台に家を建てたり、竹を植えたりしていたことにも気付いた。

そんな時に、台風により二つの橋が流されるという問題が起きた。一つの橋は中央部分が流され(図9-18)、もう一つの橋は兩岸の土砂と共に、橋全体が流されてしまった(図9-19)。この光景を目の当たりにした子どもたちは、追究内容を変え、流された橋について調べ始めた。流された橋の橋桁について調べたり、橋の調査をしている人に質問したりし

た(図9-20)。

橋が流されて困っている人たちが多くいると考えた子どもたちは、保護者にアンケート調査を行った。その結果、迂回路の橋を利用しているため、困っている人はほとんどいないことが分かった。

このような活動を通して、子どもたちは、目の前の新たな問題から逃げることなく、柔軟に対応し、正面から問題解決に向けて追究する力を身に付けることができた。



図 9-18 中央部分が流された橋



図 9-19 全体が流された橋



図 9-20 質問する子ども

3) 少子高齢・人口減少社会を生きていくために

二つの授業実践を通して、明らかになったことは次の三点である。

一つ目に、少子高齢・人口減少社会を生きていくために必要な資質・能力は、仲間と協働する力、調査する力、他教科で身に付けた資質・能力を活用する力等である。

二つ目に、少子高齢・人口減少社会を生きていくために必要な資質・能力は、予想外の問題に取り組んだときに育成される。

三つ目に、予想外の問題は、少子高齢・人口減少社会では常に生じているので、そのことに気づき、問題として取り上げることが大切である。

少子高齢・人口減少社会は、人口バランスだけでなく、産業や経済等にも影響を与える。したがって、予想外の問題は常に生じている。このことを前提に、単元を構想し、子どもの思考の流れに寄り添いながら、単元を柔軟に修正していけば、少子高齢・人口減少社会を生きていくために必要な資質・能力を育むことはできる。

今後は、単元構想の修正前後の比較を通して、予想外の問題をどのように取り上げればよいのか検証していく。

※静岡県教育委員会による大学院派遣教員として静岡大学大学院修士課程教育学研究科在籍中(2004年4月1日～2006年3月23日)に、馬居ゼミで学んだ米津(社会科教育専攻)が、同じく静岡県教委派遣教員として大学院修士課程教育学心理学専攻を修了した友人の小学校教員の新村と連携して、人口減少先進県秋田の小学校教員の渡部を誘い、馬居研究室の学部生と卒業生によりかけて、馬居教授を顧問に結成した教育実践研究グループ。大学院修了後、学校に戻った後も互いに実践研究を続け、その成果を日本生活科・総合的学習教育学会において7度にわたり発表してきた。

(米津英郎・新村弘道・渡部和則・馬居政幸)

学力から資質・能力へ

子どもに寄り添うための基礎力→豊富な専門知識を基盤に豊かな構想と多彩な表現のセンスと操作力

資料⑪ 平成30年度 学校安全計画

●は交通安全

DVDは「安全に通学しよう」～自分で身を守る、みんなで守る(文部科学省)

項目	月	4月	5月	6月	7・8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
月の重点		なかよしになる ●横断歩道をしっかり渡ろう		生活の約束を守ろう ●自転車の正しい乗り方をしよう		生活の約束を守ろう		落ち着いた生活をしよう		丈夫な体と心をつくろう		感謝の気持ちを表そう	
道徳		規則尊重				生命尊重				節度・節制			
安全 学 習	生活	●地域探検時の交通安全	●野外観察時の交通安全 ・移植ごて、スコップの使い方	●公園までの交通安全	●虫探し、まち探検時の交通安全	・はさみ、カッターナイフの使い方	・竹ひご、つまようじの使い方	●郵便局見学時の安全(2年)	・はさみ、ステープラーの使い方	・カッターナイフの使い方	・ガスコンロの使い方	・移植ごての使い方	
	理科	・ろうそく・マッチの使い方(6年)	・フラスコ・集気瓶の使い方(5年) ・虫眼鏡の使い方(3年)	●顕微鏡の使い方(5年)		・試験管・ピーカーの使い方(4年)	・ガスコンロの使い方(6年) ・マッチ・ガス・アルコールランプの使い方(4年)	●ハンマーの使い方(6年)					
	社会		●安全なぐらし(4年)				●関東大震災(6年)					・くらしを守る(3,4年)	
	図工	・はさみ、カッターナイフ、絵の具、接着剤の安全な使い方(全学年)	・写生場所の安全な選定(6年)	・のこぎり、小刀、金づち、くぎ抜き、くぎの使い方(5年)	・小づち、ゴム、電動糸のこ、ニスの使い方(6年)	・電動糸のこの使い方(5年)	・彫刻刀の管理と使い方(4~6年)	・段ボールカッターの使い方(1,2年)					
	家庭科		・包丁、ガスの安全な使い方(5年)	・裁縫用具の使い方(5・6年)	・洗濯機の使い方 ・洗剤の使い方(6年) ・着衣水泳	・アイロンの使い方							
	体育	●国定施設の使い方 ・運動場の安全	●鉄棒運動時の安全 ・マット、跳び箱運動の安全	●水泳前の健康観察 ・水泳時安全 ・熱中症予防		●集団演技、行動時の安全 ・熱中症予防	・マット、跳び箱運動の安全	・持久走時の安全	・持久走時の安全 ・縄跳び運動時の安全	・ボール運動時、縄跳び運動時の安全	・縄跳び運動時の安全	・固定施設利用時の安全	
総合的な学習の時間		●交通安全ポスターづくり(4年)	●安全マップづくり(4年)	●安全マップづくり(6年)									
教育 指 導	低学年	●登下校の安全 ●通学路を守って安全に歩く ・安全な給食配膳	●道路の横断の仕方 ・地震、火災の予防と避難の仕方	●プールの使い方 ・雨天時の室内での過ごし方	●家の周りの危ないところ ・夏休みの過ごし方 ・夏休みの生活	●校庭での安全な遊び方	●持久走記録会に向けて ・寒い日の登校の仕方	●冬休みの過ごし方 ・縄跳び大会に向けて ・災害時の身の安全の守り方	●火災の予防と避難の仕方 ・春休みの過ごし方 ・一年間の反省				
	DVD	横断歩道の渡り方 ふみまりの渡り方	とびださないために考えること	しんごうきのあるこうさく		みえない車のかけ		まとめ「おうだんを考えると」					
	中学年	●登下校の安全 ●通学路を守って安全に歩く ・安全な清掃活動	●安全な登下校 ・地震、火災の予防と避難の仕方	●プールの使い方 ・雨天時の室内での過ごし方	●もうすぐ夏休み ・夏休みの計画を立てよう ・自分の命を守るために心掛けること	●地震、火災の予防と避難の仕方 ・運動時のやくそく	●校庭での安全な遊び方 ・宿泊先での過ごし方	●持久走記録会に向けて ・寒い日の登校の仕方	●縄跳び大会に向けて ・災害時の身の安全の守り方	●火災の予防と避難の仕方 ・春休みの過ごし方 ・一年間の反省			
	DVD	自転車で道路を走る	歩道を歩いている時歩行者の安全	信号機のある交差点		見えない車のかけ		まとめ「横断を考えると」					
	高学年	●登下校の安全 ●交通安全リーダーとして ・安全な清掃活動	●登下校の安全 ●通学路を守って安全に歩く ・交通標識の知識	●プールの使い方 ・雨天時の室内での過ごし方 ・宿泊先の過ごし方	●夏休みの計画を立てよう ・自分の命を守るために心掛けること	●地震、火災の予防と避難の仕方 ・運動時のけがの防止	●校庭での安全な遊び方	●持久走記録会へ向けて練習の仕方 ・寒さに負けない体力作り	●縄跳び大会に向けて練習の仕方 ・災害時の身の安全の守り方	●火災の予防と避難の仕方 ・春休みの過ごし方 ・一年間の反省			
	DVD	急に方向を変えない	歩行者の安全も考える			見通しの悪い交差点		「止まる・見る・待つ・確かめる」					
児童会活動	主な学校行事等	●1年生を迎える会	●ワイワイ通楽区	●子ども110番の家	●夏休みがんばろう集会 ・水泳指導 ・なかよし林間 ・ソフトボール大会 ・携帯電話安全教室	●ボランティア感謝祭 ・運動会 ・なかよし運動会 ・体力テスト ・職場体験	●きぶね学習発表会	●持久走記録会	●避難訓練(阪神淡路大震災の話)	●6年生ありがとう集会 ・入学説明会	●修了式 ・卒業式		
	安全管理	●安全な通学の仕方 ・安全のきまり設定 1年歩行	●固定道具の安全な使い方 ・安全な避難の仕方 ・校舎内での歩行の仕方	●安全な過ごし方 ・プールの安全の決まりの確認 ●自転車乗車時のきまり、点検、整備	●夏休み中の安全な生活の仕方 ●線路付近の安全	●運動場での安全な過ごし方 ・安全な避難の仕方	●学習発表会時の安全のきまりの確認	●朝の道具の使い方(結露) ・冬休みの安全な生活の仕方 ●線路付近の安全	●災害時の身の安全の守り方	●1年間の人的管理の評価			
安全管理	対物管理	●通学路の安全確認 ・安全点検年間計画の確認 ・安全点検	●安全点検 ・避難経路の確認 ・防災設備の点検、整備	●安全点検 ・プール安全点検	●夏休み中の校舎内外点検	●運動場の整備 ・避難経路の確認 ・防災設備の点検、整備 ・安全点検	●安全点検	●高架水槽の点検、整備 ・安全点検	●安全点検	●安全点検	●安全点検	●1年間の学校環境安全点検の評価	
	学校安全に関する組織活動	●春の交通安全運動(街頭指導) ●リーダーシップ授与式	●心肺蘇生法講習会 ・避難訓練 ・校外安全情報交換 ・安全協力の家 ・引き渡し訓練 ●交通安全リーダーと交通安全を語る会	●不審者防犯訓練 ・地域の危険箇所確認	●国民安全の日(7月1日) ●通学路点検 ・PTA ストップマーク盗り ・グリーンベルト塗り	●秋の交通安全運動 ・防災訓練	●学校保健委員会 ・通学路点検	●市内自転車乗り大会	●保護者の持久走記録会への協力 ●年末年始の交通安全運動の啓発	●年末年始の交通安全運動	●避難訓練	●通学路点検 ・震災を振り返る(東日本大震災)	

秋田の勤勉の背景

- ☆学ぶこと自体が目的、価値、正当化、見返りを求めない、人間としてあるべき姿、条件
- ☆閉ざされた雪国⇒貧しさからの離脱⇒ビリからの離脱⇒世に出て身を立てるための教育
- ☆出稼ぎの村⇒北方教育、生活綴り方教育⇒教育によって貧しさからの離脱
- ☆家庭への視点、農村生活改善⇒山村賢明、日本人の母
- ☆『蛍雪時代—ボクの中学生日記』全4巻 矢口高雄 講談社
 - ⇒子どもが進学できるように教師が親を説得する時代の秋田の物語
 - ※秋田県雄勝郡西成瀬村（後の平鹿郡増田町、現・横手市増田町）生まれ

静岡の勤勉？ の背景

- ☆駿府⇒家康との縁⇒天領⇒城主のいない穏やかさ
- ☆東海道と宿場の豊かさ⇒道がもたらす人、文化、財
- ☆近郊農業、換金作物、高級果物⇒一年中耕作可能
- ☆西部（浜松）はオートバイ、自動車、楽器、先端産業
- 中部（静岡）は行政、教育、情報、消費、
- 東部（富士、沼津、三島、御殿場、伊豆）は製紙と自動車と観光と高級魚
- ⇒東京の食の供給源の地＋奥座敷⇒2時間ドラマの舞台

◎静岡の教育では

- ◇戦前郷土教育の伝統⇒地域教材開発の伝統⇒地域特性に根差した教員グループの存在
- ◇上田（薫）イズム⇒初志の会⇒安東小、静大附属小⇒系統的知識教授に対する問題解決学習の優位性
 - ⇒這い回ることの価値を強調⇒知識の二重の相対性への警告⇒子ども一人一人の思考の練り上げを重視⇒試行錯誤の価値を強調、
- ☆戦前の郷土教育⇒戦後の新教育・経験主義教育⇒新教科生活科・新しい学力観の授業化
 - ⇒学力調査を無視⇒いつでも上げることはできる⇒知事の怒りに半年で上位へ
 - ⇒今は忘れる…知事も静岡の教育の実態が見えてきたのでは・・・
- ☆教師の鍛えが可能
- ★★校長会と組合の二人三脚

秋田と静岡の類似と相違

◇共通は教員を教師に成長させる鍛え、違いは家族の鍛えの方向

秋田は教員に対してと同様の観点から家族の子ども観、教育観、宿題観を鍛える
 静岡は家族への求めは限定的、それぞれの独自性を前提に部分的な関わり

◇秋田の教育は全ての子どもに学力を保障する授業力の向上で教員を教師に鍛え、
 その教育課程の中に家庭学習を組み込む⇒親（母！）に学習支援者の教育力を育む
 （カリマネの日常化）⇒全ての子どもに豊かな人生を歩む機会を創ってあげたい

◇静岡は授業力を超える子ども観で教員を教師に変身させる鍛え

⇒子どもは一人一人異なる、その子にとっての理解、思考、表現、を引き出す、這
 い回ることを厭わない、むしろそこにこそ、その子なりの育ちと学びがある、集団
 への帰属より自分なりの貢献と価値を見出させる⇒サッカーの土壌！

	全ての子どもに等しく	子ども一人一人に
教える	◎秋田（家族と地域も） ⇒系統と共有優位	
引き出す		◎静岡（教師のみ？） 問題解決と個性化優位

ともに
 「主体的」「対話的」
 「深い学び」が土台だが

「知識・技能」 ⇒ 秋田 > 静岡 > 沖縄 ⇒ 「生きて働く知識・技能の習得」
 「思考力・判断力・表現力等」 ⇒ 秋田 < 静岡 > 沖縄
 ⇒ 「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」
 「学びに向かう力・人間性等」 ⇒ 秋田？!! 静岡？!! 沖縄？!!
 ⇒ 「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」

秋田の勤勉の背景

- ☆学ぶこと自体が目的、価値、正当化、見返りを求めない、人間としてあるべき姿、条件
- ☆閉ざされた雪国⇒貧しさからの離脱⇒ビリからの離脱⇒世に出て身を立てるための教育
- ☆出稼ぎの村⇒北方教育、生活綴り方教育⇒教育によって貧しさからの離脱
- ☆家庭への視点、農村生活改善⇒山村賢明、日本人の母
- ☆『蛍雪時代—ボクの中学生日記』全4巻 矢口高雄 講談社
 - ⇒子どもが進学できるように教師が親を説得する時代の秋田の物語
 - ※秋田県雄勝郡西成瀬村（後の平鹿郡増田町、現・横手市増田町）生まれ

静岡の勤勉？ の背景

- ☆駿府⇒家康との縁⇒天領⇒城主のいない穏やかさ
- ☆東海道と宿場の豊かさ⇒道がもたらす人、文化、財
- ☆近郊農業、換金作物、高級果物⇒一年中耕作可能
- ☆西部（浜松）はオートバイ、自動車、楽器、先端産業
- 中部（静岡）は行政、教育、情報、消費、
- 東部（富士、沼津、三島、御殿場、伊豆）は製紙と自動車と観光と高級魚
- ⇒東京の食の供給源の地＋奥座敷⇒2時間ドラマの舞台

◎静岡の教育では

- ◇戦前郷土教育の伝統⇒地域教材開発の伝統⇒地域特性に根差した教員グループの存在
- ◇上田（薫）イズム⇒初志の会⇒安東小、静大附属小⇒系統的知識教授に対する問題解決学習の優位性
 - ⇒這い回ることの価値を強調⇒知識の二重の相対性への警告⇒子ども一人一人の思考の練り上げを重視⇒試行錯誤の価値を強調、
- ☆戦前の郷土教育⇒戦後の新教育・経験主義教育⇒新教科生活科・新しい学力観の授業化
 - ⇒学力調査を無視⇒いつでも上げることはえきる⇒知事の怒りに半年で上位へ
 - ⇒今は忘れる…知事も静岡の教育の実態が見えてきたのでは・・・
- ☆教師の鍛えが可能
- ★★校長会と組合の二人三脚

秋田と静岡の類似と相違

◇共通は教師の鍛え、違いは家族の鍛えの方向

秋田は教員に対してと同様の観点から家族の子ども観、教育観、宿題観を鍛える
静岡は家族への求めは限定的、それぞれの独自性を前提に部分的な関わり

◇秋田の教育は全ての子どもに学力を保障する授業力の向上で教員を教師に鍛え、その教育課程の中に家庭学習を組み込む⇒親（母！）に学習支援者の教育力を育む（カリマネの日常化）⇒全ての子どもに豊かな人生を歩む機会を創ってあげたい

◇静岡は授業力を超える子ども観で教員を教師に変える鍛え

⇒子どもは一人一人異なる、その子にとっての理解、思考、表現、を引き出す、這い回ることを厭わない、むしろそこにこそその子なりの育ちと学びがある、集団への帰属より自分なりの貢献と価値を見出させる⇒サッカーの土壌！

	全ての子どもに等しく	子ども一人一人に
教える	◎秋田（家族と地域も） ⇒系統と共有優位	
引き出す		◎静岡（教師のみ？） 問題解決と個性化優位

秋田と静岡の類似と相違

◇共通は教員を教師に成長させる鍛え、違いは家族の鍛えの方向

秋田は教員に対してと同様の観点から家族の子ども観、教育観、宿題観を鍛える
 静岡は家族への求めは限定的、それぞれの独自性を前提に部分的な関わり

◇秋田の教育は全ての子どもに学力を保障する授業力の向上で教員を教師に鍛え、
 その教育課程の中に家庭学習を組み込む⇒親（母！）に学習支援者の教育力を育む
 （カリマネの日常化）⇒全ての子どもに豊かな人生を歩む機会を創ってあげたい

◇静岡は授業力を超える子ども観で教員を教師に変身させる鍛え

⇒子どもは一人一人異なる、その子にとっての理解、思考、表現、を引き出す、這
 い回ることを厭わない、むしろそこにこそ、その子なりの育ちと学びがある、集団
 への帰属より自分なりの貢献と価値を見出させる⇒サッカーの土壌！

	全ての子どもに等しく	子ども一人一人に
教える	◎秋田（家族と地域も） ⇒系統と共有優位	
引き出す		◎静岡（教師のみ？） 問題解決と個性化優位

ともに
 「主体的」「対話的」
 「深い学び」が土台だが

「知識・技能」 ⇒ 秋田 > 静岡 > 沖縄 ⇒ 「生きて働く知識・技能の習得」
 「思考力・判断力・表現力等」 ⇒ 秋田 < 静岡 > 沖縄
 ⇒ 「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」
 「学びに向かう力・人間性等」 ⇒ 秋田？!! 静岡？!! 沖縄？!
 ⇒ 「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」